

IHI REPORT

第206期 中間

2022年4月1日～2022年9月30日

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第206期IHI REPORTをお届けいたします。

当社の業績や事業トピックス等、株主さまにお知らせしたい内容を掲載しております。ぜひご覧ください。

代表取締役社長 井手 博



連結業績ハイライト(IFRS)



科目	2022年度 第2四半期累計期間	2022年度 通期予想
売上収益	5,944 億円	13,500 億円
営業利益	335 億円	850 億円
税引前四半期(当期)利益	395 億円	800 億円
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益	211 億円	500 億円

中間配当について 1株当たり 40円

当期における中間配当につきましては、
1株当たり40円とさせていただきます。

当期の期末配当につきましては、1株当たり40円の予想としております。



事業変革への準備・移行期間から投資の実行段階へ。 「プロジェクトChange」の成果を 次期中期経営方針へ繋げてまいります。

代表取締役社長 井手 博

プロジェクトChangeの振り返りをお願いします。

当社グループを取り巻く事業環境は、ウクライナ問題や米中関係の悪化、世界的なインフレーションや急激な円安の進行など、引き続き激しく変化しております。

このような環境下において、当社グループでは、成長軌道への回帰をはかり、新たな成長事業を創出するために、2020年度より「プロジェクトChange」に取り組んでまいりました。

成長軌道への回帰の前提として、大型プロジェクトを遂行する当社グループとして、まずは工事損益が下振れしないように、しっかりと管理することが重要となります。現在進行中のプロジェクトは、リスク管理・プロジェクト管理を通じてコントロールされた状態にあり、今後も継続して適切な管理を行なうように注力してまいります。ライフサイクルビジネスの拡大については、原子力発電設備の安全対策工事や老朽化した社会インフラの補修などの大型プロジェクトのみならず、産業用機械の分野でも遠隔監視などの新たなサービスの提供に取り組んでまいりました。その結果、ライフサイクルビジネスの売上収益を2019年度比で30%増加させるという当初の目標を達成する見込みです。収益基盤の強化については、民間向け航空エンジン事業において生産性改善の取組みが着実に進むとともに、他の事業領域でもリードタイムの短縮や生産効率の向上が進んでおります。

2022年度上半期におきましては、これらの取組みのほか、民間向け航空エンジン事業の回復基調が続いたことなどから売上収益は前年同期と比べて全事業領域で増収となり、営業利益は全事業領域で黒字となりました。

成長事業の創出に向けた取組みと進捗について教えてください。

社会課題の解決が当社グループの持続的な成長に繋がると考え、「カーボンソリューション」「航空輸送システム」「保全・防災・減災」を成長分野として取り組んでまいりました。

カーボンソリューション

燃料アンモニアは、燃焼時にCO₂を排出しない燃料として世界的な注目を集めております。当社グループは、燃料アン

モニアの技術開発を積極的に進めてきており、碧南火力発電所におけるアンモニアの混焼実験をはじめとして、実用化に向けて取り組んでおります。今後はさらに、世界中のパートナーと協力しながら、燃料アンモニアの製造から利用に至るアンモニアバリューチェーンの構築に注力してまいります。

航空輸送システム

航空機の軽量化による燃費性能の向上を実現するため、航空エンジンへの新素材^{*}の適用による軽量化に加え、新素材の機体への適用に向けた技術開発も進めております。また将来に向けて、航空エンジンの電動化・ハイブリッド化に向けた開発を進めております。

保全・防災・減災

橋梁や水門など、社会インフラの強靱化をサポートする「守る技術」と、気象観測や地下水位の観測等の「測る技術」を通じて、保全・防災・減災の実現に取り組んでおります。今後は、「守る技術」と「測る技術」に当社グループの強みである「ロケット・衛星利用」など、宇宙関連技術を統合した形でのソリューションを提供してまいります。

※炭素繊維強化複合材料(CFRP)、セラミックス基複合材料(CMC)

次期中期経営方針の検討状況を教えてください。

現在策定を進めております次期中期経営方針では、「プロジェクトChange」の成果をもとに、成長事業への重点的な投資を実行し、事業ポートフォリオの最適化を実現してまいります。その投資原資を確保するために、盤石な事業基盤を構築し、キャッシュ創出にこだわった経営を進めてまいります。また、環境変化に打ち勝つ事業体質を実現するための土台となるDXの推進と、変革人財の育成・採用にも取り組んでまいります。

次期中期経営方針においても、ESGを価値観の軸に事業活動を通じて社会課題を解決し、持続可能な社会の実現と、企業としての成長の両立を目指すという当社グループの姿勢は変わりません。次期中期経営方針は、2022年度の決算発表に合わせてお示しできるように準備を進めております。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

事業部門別概況

売上収益は全事業領域で前年同期比増収となりました。
営業利益は全事業領域で黒字となりました。



受注高

6,428 億円

売上
収益

5,944 億円

営業
利益

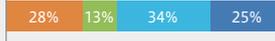
335 億円

2022-2Q
累計期間



受注高に占める各事業領域の割合^{※2}

2022-2Q
累計期間



売上収益に占める各事業領域の割合^{※2}

2022-2Q
累計期間



営業利益に占める各事業領域の割合^{※2}

※2 調整額等を除く

資源・
エネルギー・
環境事業領域

原子力での工事進捗により
増収・増益

売上収益

1,645 億円

営業利益

100 億円

社会基盤・
海洋事業領域

橋梁・水門で増収・増益も
シールドシステムおよび
都市開発の減収により減益

売上収益

754 億円

営業利益

31 億円

産業システム・
汎用機械
事業領域

熱・表面処理で増収・増益も
物流・産業システムおよびパーキングの
好採算案件の減少により減益

売上収益

2,002 億円

営業利益

53 億円

航空・宇宙・
防衛事業領域

民間向け航空エンジンの
スペアパーツの販売増加や為替の
影響により増収・増益

売上収益

1,509 億円

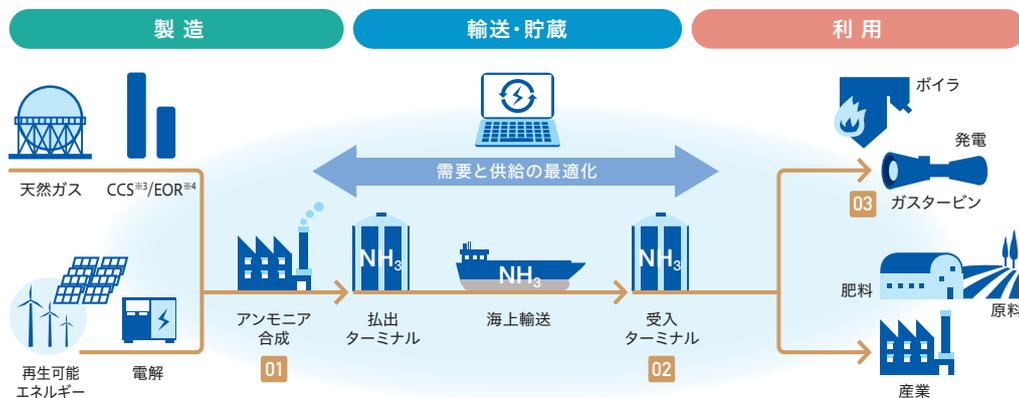
営業利益

188 億円

Topics

アンモニアバリューチェーンの構築に向けて ～2022年度上半期の取組み～

アンモニアは燃焼時にCO₂を排出しないため、カーボンニュートラルの実現に貢献する燃料として注目を集めております。
当社グループは、燃料アンモニアの製造から輸送・貯蔵、利用にわたるバリューチェーン全体の構築に向けて取組みを進めております。



アンモニアバリューチェーンの構築に向けた取組み

本年6月に、UAE(アラブ首長国連邦)で製造したクリーンアンモニアを日本に輸送し、当社が開発中のガスタービンの燃焼実験で利用する、サプライチェーンの共同実証を行ないました。

また、9月には、「IH×東北大学アンモニアバリューチェーン共創研究所」を設立する等、技術の早期実装に向けて取組みを加速しております。

01 CO₂フリーアンモニアの合成技術を開発

複数の大学機関やデノラ・ペルメック株式会社と共同で、原料となる水素の製造からアンモニアの合成までを1つのプロセスで実現する装置の開発に取り組んでおります。本取組みにより、低コスト、効率のかつ製造過程でCO₂を排出しないアンモニア合成技術の確立を目指します。

02 洋上浮体式アンモニア貯蔵設備の開発

陸地から輸送された液体アンモニアを洋上で貯蔵し、気体に変換したうえで陸地に再供給する浮体式設備の共同研究開発を進めております。本設備は、低コストかつ短期間に導入できるため、陸上貯蔵設備の代替としての利用が期待されます。



03 燃料アンモニアの実用化に向けた取組み

国内外の火力発電所において、石炭とアンモニアの混焼による発電の実証および専焼に向けた技術検討の取組みを進めております。また、2022年度上半期には、火力発電用ボイラ向けバーナおよび2,000kW級ガスタービンにおいて専焼に成功しております。



※3 CCS:Carbon dioxide Capture & Storage (CO₂回収・貯蔵) ※4 EOR:Enhanced Oil Recovery(石油増進回収)

車いすバスケットボールイベントの開催



当社グループは、2015年から日本車いすバスケットボール連盟の活動に賛同しており、各種大会の応援や選手の皆さまとの交流イベントの開催を通じて、車いすバスケットボールを応援しております。

本年10月には、株式会社IHIエアロスペース富岡事業所の従業員およびそのご家族、近隣自治体の皆さま約100名を招待し、エキシビジョンマッチや体験会を含むイベントを開催しました。

当社グループは、車いすバスケットボール連盟の公式スポンサーとして、これからも車いすバスケットボールを応援してまいります。特設サイトもぜひご覧ください。



HP <https://www.ihico.jp/csr/social/community/bsk/>

「はやぶさ2」の帰還カプセルを近隣学校向けに展示



当社グループは、本年10月、社会貢献活動の一環として、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)より小惑星探査機「はやぶさ2」の帰還カプセルを借用し、近隣の小学校・中学校向けの課外授業として展示会を開催しました。

「はやぶさ2」は、小惑星リュウグウの科学的観測やサンプルの採取を目的とした探査機で、カプセルの開発には、株式会社IHIエアロスペースが参画しました。

次世代人材の育成は、当社グループの社会貢献活動における重点課題です。当社グループは、ものづくりを担う人材の育成に、これからも積極的に取り組んでまいります。



HP <https://www.ihico.jp/csr/social/community/activity/>

会社の概要 (2022年9月30日現在)

商号	株式会社IHI / IHI Corporation
設立年月日	1889(明治22)年1月17日
本社所在地	〒135-8710 東京都江東区豊洲三丁目1番1号
資本金	107,165,393,180円
株主数	91,996名
ホームページアドレス	https://www.ihico.jp

役員 (2022年9月30日現在)

取締役

代表取締役会長	満岡 次郎
代表取締役社長	井手 博
代表取締役	山田 剛志 池山 正隆
取締役	川上 剛司 茂垣 康弘 盛田 英夫 瀬尾 明洋
社外取締役	中西 義之 松田千恵子 碓井 稔 内山 俊弘

監査役

常勤監査役	新村 高志 丸山 誠司
社外監査役	岩本 敏男 関根 愛子 早稻田祐美子

会計監査人

EY新日本有限責任監査法人
東京都千代田区有楽町一丁目1番2号
東京ミッドタウン日比谷
日比谷三井タワー

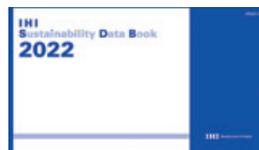
当社ホームページをぜひご覧ください



統合報告書



<https://www.ihico.jp/csr/download01/index.html>



IHI SUSTAINABILITY DATA BOOK



<https://www.ihico.jp/csr/download02/index.html>



IHIグループのESG経営



<https://www.ihico.jp/csr/esg/index.html>



YouTube

<https://www.youtube.com/@IHIcorporation>



株式事務のお問い合わせ先

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

IHI Realize your dreams

